

# 全高書研會報

全日本高等学校  
書道教育研究会

事務局

千葉県立木更津東高等学校  
〒292-0056  
千葉県木更津市木更津2-2-45  
山口 英徳  
TEL 0438-23-0538  
FAX 0438-22-0561

出版部

三重県いなべ総合学園高等学校  
〒511-0222  
三重県いなべ市員弁町御園632番地  
天野 太輔  
TEL 0594-74-2006  
FAX 0594-74-4104

印刷

光出版印刷株式会社  
〒515-0044  
三重県松阪市久保町1885-1  
TEL 0598-29-1234  
FAX 0598-29-0265



## 全高書研川崎特別大会を終えて

全日本高等学校書道教育研究会 会長

木村 則夫

(神奈川県立相模原高等学校副校長)

八月八日～九日、全高書研川崎特別大会は三百名を超える先生方のご参加を得て、無事開催できました。今回は開催時期を夏期休業期間に移す、将来書道の教員を志す大学生、大学院生にもご参加いただく等、大きな改革を進めた大会でもありました。普段とスケジュールが違っている中で発表していただいた先生方、ご参加いただいた皆様、そして運営に携わっていただいた先生方には心から厚く御礼申し上げます。

今大会のテーマは「高等学校芸術科書道とは」～高等学校教育における書道教育の役割を改めて考える～でした。その中では「書に関する見方・考え方」が議論の中心であったと思います。各教科・科目の「見方・考え方」

は各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであり、また深い学びの鍵として働かせるものです。各教科・科目の「見方・考え方」を社会で活用できるレベルまで高め、諸課題を解決しながら予測不可能な未来を生きる生徒を育てることが一番の目的であることが確認されたと思います。また「書に関する見方・考え方」を高める＝書の表現技法を高めるではないという考え方も示されました。授業の中で「考える時間」「書表現する時間」「議論する時間」をどのような配分にしたら良いのか。それらをどのように評価していくのか。各校の生徒の実態に応じて違ってくると思いますが、皆さんの学校でもいま一度ご確認いただければと

思います。

また、「書に関する見方・考え方」を身に付けるといふことは、生徒が身近な手書き文字や名筆への関心を持ち、作品や書に興味・関心を抱き、生涯にわたり、主体的に文字や書と豊かに関わることでできる資質・能力を育成することにつながります。高校卒業後も書を愛好する人が増える、書が学ぶ人が増える、書道展に人が多く集まる、デザイナーの「筆文字」ではなく、書家の「書」が街中にあふれる、そして高等学校芸術科書道の選択者が増える…。こんな未来を実現するために、わたしたち書道教員一人ひとりが、授業を通じてしっかりと人づくりをしなければならぬと強く感じた大会でもありました。ご参加された皆様はどの

ように感じられたでしょうか。

ところで話は変わりますが、各教科の目標のうち「学びに向かう力、人間性等」は①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習評価を通じて見取ることができるものと、②(感性、優しさや思いやりなどを含めた幅広い人間性等に関わる)観点別評価にはなじまず、個人内評価を通じて見取るものがあります。ただし芸術科は②の中にある「感性」を高めることが目標にあります。他の教科にはない特徴であり、「人間性」を高める重要な教科なのです。AIが更に発展して身近な生活に浸透する未来では、「人間性」が重要な要素となることは間違いありません。高等学校の現場では、芸術の時間数が減っている傾向も報告されています。私は全高書研会長として、芸術科目、そして書道の重要性を訴え続ける使命を持って全力で取り組んでいきます。皆様ご協力をよろしくお願いたします。



# 授業改善は私たちの永遠の課題

川崎特別大会 大会長 荒井 利之  
(川崎市立高津高等学校教諭)

この度、川崎特別大会には多くの皆様にご参加頂き、本当にありがとうございました。三〇〇名以上の皆様に参加を頂きましたことに深く感謝を申し上げます。今回の大会は、事務局主催、八月実施、通常の事務局業務と並行した運営など、業務内容の整理をはじめ時間的制約の中での調整など課題山積の中での開催でした。しかし、私たちにはこれまでの全国大会の長所を生かし、かつ新しい付加価値を見出す大会にしたい！という共通した理念があったからこそ何とか実現出来たのではないかと思います。ただ、反省点として大会業務と事務局業務の振り分けが重複することもあり、一部のメンバーに負荷がかかったことも事実でした。また、非常勤講師の先生にも多く参加して頂き良かったです。来年度以降の大会では、開催県とブロックの役割を明確にすることによる円滑な運営と多くの先生の参加を願うばかりです。

城大会では、現行の学習指導要領が学年進行で実施された時期でもあり、三観点評価、指導と評価の一体化、指導案の作成、ICTの有効活用などの趣旨に則り、私たちが授業を展開していくための先駆けとなる授業研究や研究発表が展開されました。そして完全実施となった今年度に私たちに求められていることは何なのか。私たち事務局は、川崎特別大会のテーマに「高等学校芸術科書道と道教育の役割を改めて考える」を掲げ、先に述べた趣旨に則りながら書道教育の本当の意義をもう一度見つめ直そうという問題提起を皆様にごさせて頂きました。そしてこの問題提起は単に芸術科書道だけでなく、芸術科(音・美・工・書)全体に問いかけるものでもありました。

私たちは、書の上さや美しさを身体全体で感じ、生徒たちが表現や鑑賞を通して書を愛好する心情を育み、人格形成を目指す授業を目指し日々研鑽を積んでいます。より良い書を目指すことは、単に技能を高めるだけのものではありません。そこには書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会につながり生かせる書、書の伝統と文化に幅広く関わることで表現の意味や価値を見出す資質・能力を育てることが必要です。今回の川崎特別大会では、まさに書道教育でどのような資質・能力を高め人格形成につながるかに、まさに書道の範囲を越えた芸術そのものの在り方を皆様と考える機会にしたかったので。

そのため今回の川崎特別大会は、スタイルも大きく変更し、基調報告として今求められる書道の授業のあり方を共有し、それを受けたシンポジウムで多角的な視点で捉え課題や解決策を見える化し、今後の実践につながる流れを考えました。また、ブロック別情報交換の内容を研究成果の共有、若手の先生の基盤づくりに絞りました。授業実践発表では、私たちの授業実践において今後のヒントとなる実践力を高め、チャレンジ分科会で書道教育を取り巻く諸課題を見つめ、各自が課題意識を持って授業や研究に取り組むきっかけとなることを目指しました。まさに大所から身の回りまでの視点でプログラムを構築したのがこの大会の趣旨だったので。

私たち事務局はチャレンジャーとしてこの大会に臨みましたが、今後どのような形態が果たして効果的なのか。それはこれからの書道教育がどのような道を歩み、私たちが何をしていくべきかで形態も方法も変わっていくのだと思います。そして、はつきり言えることは全国大会が続く限り、そこに参加する私たちは、研鑽を重ねた多くの発表を目の当たりにすることで、新たな書道教育の在り方を創り出すための入口に立つことが出来るということです。時代は変わろうと芸術を通して生徒たちが成長していく道を切り開き続ける全高書研のこれからの発展と活躍を心から祈念しています。皆様のご支援・協力、本当にありがとうございました。

文部科学省後援 **令和7年度** 書写検定のペンころちゃん

## 硬筆・毛筆 書写技能検定試験

●後援 文部科学省・全国都道府県教育委員会 全国高等学校校長協会・全日本中学校長会・全国連合小学校校長会・全国高等学校PTA連合会等

一般財団法人 **日本書写技能検定協会** 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-41-3 <https://www.nihon-shosha.or.jp>

令和7年度1回	
【試験日】	【申込み期間】
6月15日(日)	4/1~5/16
令和7年度2回	
【試験日】	【申込み期間】
11月9日(日)	9/1~10/10
令和7年度3回	
【試験日】	【申込み期間】
8年2月8日(日)	12/1~1/19

書写検定 検索 詳細・各種お問合せはこちら



# 川崎特別大会開催報告

## 人の和による 手を繋ぎ作った大きな輪

川崎特別大会運営委員長 小室 信男  
(湘南学院中学校高等学校)

川崎特別大会は、本部事務局が開催し、二〇一八年全国研究会総会以降の『全日本高等学校書道教育研究会の今後の全国研究大会のあり方の意見』を反映し、これからの持続可能な全国大会のあり方を考えていく「テスト大会」として実施しました。これまでの会員の先生方の前向きな改善意見を集約実践し、チャレンジ意欲を形にする提言大会でもありました。

初めの夏季休業中開催、クラウドを活用した資料提示、新規企画のチャレンジ分科会の開催、書道を学ぶ大学生等の参加、協賛団体出展・書道教育関連資料や書道系大学進学に必要な大学資料の配布コーナーの設置等、多くの工夫を取り入れました。

川崎特別大会を夏季休業中にテスト大会として実施したことにより、この時期の大会運営課題も明らかになってきました。

今後の全国大会運営では、さらに「持続可能な全国研究大会」に向けた課題」をより明確にし、組織の事業計画や運営体制を見直す必要があります。

この運営課題は全国役員会役員や全国の会員の先生方と共有し、より魅力ある全日本高等学校書道教育研究会の全国研究大会のあり方では、大会で優先して改善実施するプログラムの企画内容を検討しながら、その実施成果を各地の全国研究大会で積み上げ、開催地から強く全国に発信していくことが求められています。

また「これからの書道教育はどのような道を進めば良いのか」「私たちは何をしていくべきか」の問いに対しては、私たち全日本高等学校書道教育研究会会員二人ひとり、自校の教科指導の充実につとめ、その成果を都道府県で共有し、さらに全国研究大会で実践報告・協議し、その輪を大きく広げていく。この自発的な「草の根運動」の取り組みから、「大きなうねり」と大きな輪」に繋が

ることになるものと思います。本部役員会や本部事務局では、これまで以上に機動力・推進力を発揮し、全国研究大会を新たな書道教育のあり方を創り出すための、語り合い励まし合う「うねりの場所」にする必要があります。

書道教育に従事する先生方が横に繋がり、その輪はやがて高等学校書道教育の充実に繋がる大きな輪となり、そして「新しい若い力を育てるプラットフォームとしての全国研究大会」に成長していく。

その実現に向け、全国大会各プログラムを今後どうやって発展充実していけば良いか、この目標設定を明確にし、その課題解決に向かう長期短期のアイデアをひとつずつ形にし、全国の会員・高等学校書道教育関係者・書写書道教育関係者が結集し、書道教育への夢を伝えあえる場にしたいと思えます。

熱意を持って取り組む「弛ま

川崎特別大会大会報告・大会総括は二〇二四年十月二十六日開催の全国幹事会・全国役員会で報告した内容を川崎特別大会特設ホームページに公開しております。今後の「持続可能性のある全国大会開催に向けて」の成果と課題の情報を共有いただきますようお願いいたします。

熱意を持って取り組む「弛ま

熱意を持って取り組む「弛ま

熱意を持って取り組む「弛ま

熱意を持って取り組む「弛ま



上品で力強くつややかな墨色。黒味にこだわった書道液

作品用書道液 それぞれの濃度に適した伸び、  
運筆の良さで書き易く、製品の  
安定性、乾き、表具性に優れた  
樹脂系作品用液体墨です。

**玄徳**

普通濃度 中濃墨  
濃墨 超濃墨

選べる  
4種の濃度

呉竹公式 HP

株式会社 呉竹 〒630-8670 奈良市南京終町7-576  
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

使い継がれて半世紀以上、安心安定の墨液。

玄宗  
シリーズ  
Since1972

**玄宗**

作品用 / 合成糊使用  
力強い紫紺系の墨色  
4種類の濃度タイプ

墨液・中濃墨液・濃墨液・超濃墨液  
各200ml、500ml、2L

墨運堂 検査

株式会社 墨運堂 〒630-8043 奈良市六条1-5-35  
TEL:0742-52-0310 FAX:0742-45-6880

# 授業研究発表

## 新しい教育課題に対応したこれからの

### 高等学校芸術科書道教育 ―「活用力」から「応用力」、そして「探究力」へ―

愛知県立松蔭高等学校  
教諭 加藤 眞太郎

この度は、私の拙い発表をお聞きくださり、本当にありがとうございました。発表後、多くの先生方にお声がけをいただき、様々なご意見や感想をいただく中で、今後も実践を続けていこうという気持ちで湧いてきました。

発表の冒頭でも触れましたが、現在、「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善」、「指導と評価の一体化」、「ICT効果的な活用」、「探究的な学び」、「個別最適な学び」と『協働的な学び』の一体的な充実」等、様々な教育課題が挙げられる中で、日々の授業をどのように変え、実践したいかについて考え、取り組んでみようと考えたこ

とが今回の発表のきっかけです。

そのためにはまず、それぞれの教育課題を正確に理解しようと、学習指導要領だけでなく同解説や答申、書籍等に当たる中で、「逆向き設計」という考え方に会おうことができました。愛知県教育委員会が主催する研修会で京都大学の西岡先生のご講演を拝聴する中で、「これまでの書道教育は結構実践できているのではないか」という漠然とした思いが生まれました。作品制作や相互鑑賞が単元の最後に設定されることの多い書道の授業では、単元の最後に何をすべきか、というゴールに向かって古典を臨書したり、鑑賞したり、作品の構想をした

りする学習活動があるわけですから、基本的に「逆向き設計



計」の考え方で単元が計画されているのではないかと思っただけです。しかし、芸術科書道の授業では作品を制作することがゴール(目標)ではなく、目標を学習指導要領に求め、教師にとつても生徒にとつても、わかりやすいように明確化し、提示する必要があるとあります。ただ単に「作品を制作する」ということではなく、「どうして」や「何のために」作品を制作したり相互鑑賞したりするのか、と考えていくことで、西岡先生がおっしゃる「本質的な問い」とは、「教科・科目の本質に迫る問い」であるという考えに至りました。

また、生徒が「何ができるようになるか」と考えることは、まさに、授業を「生徒を

主語にして考える」ことです。さらに「知識及び技能」だけでなく、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」の育成もバランスよく目指す必要があります、それぞれの目標は一つの学習活動の中でも重なり合っています。その上、生徒が既に身に付けている資質・能力は個人によって異なる、「知識及び技能」をいつ

活用するか、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」をいつ発揮するかといったタイミングも生徒によつて異なります。ここに「個別最適な学び」の考え方を取り入れる必要があると考えました。加えて、制作した作品や作品から感受したことに正解はありません。そうした課題に取り組み、自分の考えを表現することは「探究的な学び」であり、芸術科書道と親和性が高いと感じたため、学習活動の中に取り入れることとしました。そうしたこと踏まえ、生徒がいつでも、どんな内容でも学習記録を蓄積できる環境を整えるためにICTを活用しようと考えました。ICTの特性を活

かしつつ、なるべく汎用的なアプリを活用しようと思い、ワークシートを作成しています。

このように考えて今回の発表に至ります。私自身、これまでとは大きく授業の進め方を変えており、生徒にとつても経験のない者が多いと思います。ですから私自身、まだまだ試行錯誤しながら授業を実践しています。もし、今回の発表内容を先生方がどこかでご自身の授業に取り入れてくださるのであれば、うまくいった点やそうでなかった点を共有させていただきながら、さらなる授業改善に取り組んでいきたいと考えています。今後とも、ぜひ様々なご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。



# 授業実践発表

## 古典の特徴を生かし意図に応じて

### 表現を工夫する授業実践

#### ―自ら選定した熟語の做書を通して―

長野県立長野西高等学校  
教諭 味澤 紀歩

この度は、このような貴重な発表の機会を与えてくださった川崎特別大会関係者の皆様、また発表に至るまでの間、ご指導をいただいた先生方に心より感謝申し上げます。

今回の発表を通して、做書の意義を再確認できたように思います。書道Ⅰの中で、臨書から創作への足がかりとして行う做書は決して新しい先進的な活動ではありませんが、生徒の資質・能力を育成するための、評価までを見通した堅実な積み上げが重要であると感じました。本校は、「自分を大切にし、他人を思いやる豊かな人間性を土台とし、高い志と自主自立性を育む」ことや、未来創造力の育成を目指しています。この実

現に向けて、芸術科・書道では、特に、未来創造力の一つである「表現・発信力」の育成を目指し日々授業作りをしています。自らの意図に基づきながら作品を構想・工夫し、試行錯誤する創作活動を通して自己を表現する力を発揮できる場面を多く設けることで、生徒が自信をもって社会に羽ばたける一助になればと思っています。育てたい生徒像を明確にし、実態や学習状況を把握しながら書道の授業で学校目標をどのように実現していくのかを考え、今後も授業を実践してまいりたいと思います。

今回、全国の先生方と情報共有する中で、①主体的・対話的で深い学びを意識した授業②スクールポリシーを意識した授業③地域と連携・協働した授業について、県や学校によっ

てさまざまな状況下で、それぞれに試行錯誤を重ね、授業に向き合っている様子が伝わってきました。その他にも、授業のあり方や授業方法などについて活発に意見交換をする様子を拝見し、自分の知識不足を痛感すると同時に書道の授業に対する熱い思いと全国のレベルの高さに感銘を受けました。

最後になりますが、本大会で得られた知見や反省点を生かし、これからも研鑽を積んでまいりたいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。

## 行書の書風と用筆・運筆・墨色の

### 関係について(祭姪文稿の学習を通して)

#### ―臨書から創作に向けての展開例―

岩手県立盛岡第四高等学校  
指導教諭 丸若 礼子



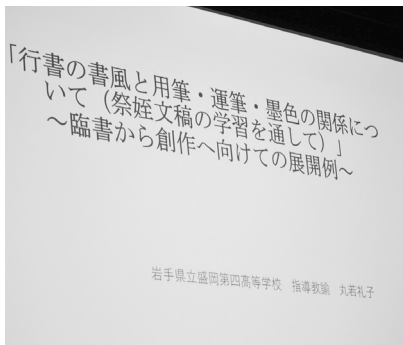
ものです。

本単元では、肉筆の古典である祭姪文稿を通して書を作成する要素を用いて分析し、祭姪文稿の学習を通して行書の書風と用筆・運筆・墨色の関係について指導した実践例です。表現効果と書風との関わりを深く考えることで、表現することの楽しさや書よさや美しさを深く味わうことができるようになることを目指すものです。また、筆者の感情と線質との関係等を探り、考えを深めていくことは、生活と社会とのかかわりや自身の人生とも関わらせて幅広い視野から書捉えることを目指しています。

今回の題材については、令和五年度東北書写書道研究協議会盛岡大会で行った研究授業を基に、「行書の書風と用筆・運筆・墨色の関係について(祭姪文稿の学習を通して)」を基に臨書から創作に向けての展開例として研究した

年間指導計画では、臨書から創作へと展開しやすい構成にしています。漢字の書(鑑賞と臨書と創作)の楷書、行書の書と仮名の書(鑑賞と臨書と創作)の後に漢字仮名交じりの書をそのまとめとして展開しています。





実践授業の成果とまとめについては、(1)創作の際、書く言葉を自分で考えて表現することは、主体的な活動を大いに引き出すものであり、言葉と書風の関係を考えさせることが重要であること。(2)言葉の選定にあたっては、学校行事などの感想や目標など、クラスで共有できるテーマを設けると、鑑賞会での会話も活発になり、より対話的な学びができること。(3)単元の最後に創作を入れ、漢字の書、仮名の書の後に創作を入れ漢字仮名交じり書へ展開している一連の流れを通して、臨書を基に創作していくことが定着し、臨書学習への意欲も高まってきたことなどが挙げられます。

課題としては、(1)更に線質への理解を深め「線質」、「字

この度、第四十八回全日本高等学校書道教育研究会川崎特別大会において授業実践発表を行う機会をいただきましたが、とうとうございました。急遽、沖縄県の代理発表へと変更になりましたが、全高書研本部役員の先生方や神奈川県や九州地区の先生方の厚いサポートのもと、無事に発表を終えられましたことを心より

沖縄県立八重山高等学校  
教諭 知念 一正

### ICTを活用した効果的な「振り返り」の活動方法について —One Noteで作成したポットフォリオを活用して—

形」、「構成」を生かした表現ができるようになること。(2)鑑賞力を高めることです。言葉を書く上での「時間性」、運筆の速度や緩急等の「運動性」に関して、表現との関わりを捉えることが大切であると授業研究を通じて感じました。「用筆・運筆」については、動画等のICTを有効に活用することが重要です。その他

にも、効果的な相互鑑賞・意見交換については様々な方法を研究し、改善していきたいと考えています。

この大会を通して、改めて行書の学習や創作への展開について深く考え、多くの気づきや発見がありました。今一度、年間計画を見直し、授業改善を重ね、楽しい創作の授業ができるよう目指します。



感謝しております。

今回の発表した授業実践は、沖縄県で実施している採用10年目の教諭対象本県の中堅教諭等資質向上研修の課題研究として、行った取り組み授業実践です。ICTを活用した効果的な「振り返り」のための活動方法をOne Note (デ

ジタルノート・ツール)で作成しポットフォリオを活用した取り組みを発表させていただきました。

生徒の学びを深めるためには、これまでの学習内容の「振り返り」が非常に重要であると考えました。今回の研究に取り組んだのは、書道の授業でいかに「振り返り」の活動を促せるかを考えた際、One Note (デジタルノート・ツール)で作成したポットフォリオを用いることで、生徒が気軽に「振り返り」をすることができるようではないかと考えたからです。

授業終了後アンケートを実施したところ、学習内容の定着や技能の向上など自身の変容を強く感じる事が出来ており、特に「漢字仮名交じりの書」においては、これまでの個々の活動の時とは違い、得た知識を活用して、グループ内でひとつの作品について協力し、意見を出し合いながら課題を解決していこうという積極的な姿勢が見られたのは、期待以上の成果でした。

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官豊口和士先生の講演でもICT



機器の活用は第二フェーズへ移行しているとありました。今回の授業実践を通して、書道の授業では二斉授業においてICT機器を使用していました。今回研究を進めるに当たって、「個別学習」や「協働学習」にこそ力を発揮すると実感しました。GIGAスクール構想がスタートし、様々な教科でICT機器が使われています。書道の授業においても、文房具のようにICT機器が使える環境を整えてあげることが、「個別最適な学び」や「協同的な学び」を充実させることに繋がるのではないかと感じました。

最後になりましたが、今回の大会に向けて御指導賜りました全高書研役員の先生方、大会運営に御尽力下さった神奈川県の先生方に心より御礼申し上げます。

# チャレンジ分科会

## 墨色の豊かさ

大東文化大学  
講師 日野 楠雄

ある研究会で江戸時代の書跡を見る機会が多くあります。最近では各所でみる平板で光沢が少なく、ただ黒い液体墨作品を見過ぎているからか、殊にその墨色に魅かれ、「豊かだなあ」と感じています。

川崎大会の分科会では文房四寶は書表現に直結するとして、二コマを講演と資料紹介の機会をいただきました。特に拓本や細井廣澤の卷子本は、珍蔵・骨董趣味ではなく実用に関する、または新しい考え方を導くものとして紹介しました。

この大会では、高校現場の状況を知りたいこともあり二日間お邪魔し、報告や発表を拝聴しました。その中で「液体墨と墨色について」という言葉があったと伝え聞き、液体墨で墨色を語る時代になったの

かと驚きました。また「個別最適化」という言葉にも興味を抱きました。この中では授業中に書く半紙の枚数に触れ、個々の能力によって、それぞれ違いがあってもいいかもしれないということも印象的でした。

これらを踏まえて、文房四寶を研究する立場として、ここでは今後の高校現場へのお願いを含めて、磨墨と墨色を中心に書いてみます。

磨る墨と液体墨は物性・生産性・身体性・保存性において大きく違うものです。原料と製造方法が違うことは誰でも知っていますが、書の用具用材として、唯一生徒が自分で作り出せるのが硯で磨る墨であることはあまり気づいていないのです。そして同じ墨と硯でも磨り方や早さで異なり、できた瞬間から変化して行くという、濃度だけでなく発墨性がそれぞれ違うもので、まさにオリジナル。キヤップを捻れば使える

皆同じ(画的)なものとは違い、生産性のある芸術書道にピッタリ用材なのです。

固形の墨を水と共に硯面に触れ、脳は微細な凹凸である鋒銚を感じて、腕を動かす指令を出し、すると膠が水で緩み墨の粒子がほぐれ、液体になつていくのが磨墨です。こんな微妙なものを感じとれる作業とその身体性は貴重なものと言えるのです。

液体墨が当たり前になると、知らない内にその生産性と身体性、さらに微細な感覚を奪ってしまいます。まるで缶コーヒーやペットボトルのお茶と焙煎珈琲や急須でつく煎茶では深みが違うように、コスパやタイプを優先することで本質的なものを置き去りにしては、書の文化の伝承につながりません。そして、正倉院文書や

平安古筆が証明しているように、化学的なものを含まない伝統的な墨と紙は、千年もの保存性を持つのです。

文房四寶が書作の前提であり書表現に直結するものにも関わらず、大会ではほとんど話題に上らなかつたのは不思議でした。普段当たり前過ぎるからなのかわかりませんが、筆なら書く技術や表現を生み、紙なら筆と墨を受けて表現を顕在化し、そして硯で磨つた墨はオリジナルで、個々の豊かさを見せてくれるものです。あらためて四寶に目を向けていただき、特に墨を磨って書くことで生徒の思考・判断・表現の力はさらに伸ばせるのではないのでしょうか。

多くの先生方が、授業の中で液体墨の使用頻度が高いことは聞いていますが、まずは先生方が物性・生産性・身体性・保存性の違いについて再確認していただき、区別するところから始められたらいかがでしょうか。同時に生徒にもそれを伝え、体験させることで徐々に両者の棲み分けを通して、明確になっていくものと信じています。



### 募金協力のお知らせ

川崎特別大会にて能登及び、宮崎、鹿児島での地震災害の募金協力を行いました。

募金額	38,383 円	石川県、能登については	12,000×2口	24,000 円
		宮崎県、鹿児島県について	7,000×2口	14,000 円

県理事を通じて送金いたしました。

## 後援事業「全日本高等学校書道コンクール」の事業推進と審査と指導のあり方

全日本高等学校  
書道コンクール事務局

千葉県立行徳高等学校

教諭 鹿野 美彦

東京都立小岩高等学校

講師 佐藤 顕弘

全日本高等学校書道教育研究会の後援事業として開催している本コンクールは、大阪、長野、東京、千葉と運営事務局を移行しながら、今年度まで三十二年間(今年度第二十九回コンクール実施)の歩みを刻んで参りました。全国の高等学校書道教育に尽力される先生方のご理解、ご協力をいただきながらここまで継続してこれたことに対し心より感謝申し上げます。

川崎特別大会では、チャレンジ分科会の一コマとして本コンクールの事業推進と審査と指導のあり方について、全国からご参加いただいた先生方と意見交換をする貴重な機会を得ることができました。

分科会前半では、これまで発行してきた成績発表紙や会



報を会場に掲示させていただきました。本コンクールの運営や出品状況等の経緯について説明し理解を深めていただきました。後半は、本コンクールの審査がどのように行われ、その中で浮かび上がる懸案事項について、過去の事例を紹介し実際の作品を示しながら発表させていただきました。

まず、ご理解いただきたいのは本コンクールが現役の書道教員でつくる公募展であること、そして各校の指導者によって事前の審査を経て、年末の「予備審査」、年明けの「本

審査」に至るといことです。部門を細分化し学校名を伏せて、高校書道教員の代表と云える全高書研の役員を中心に慎重かつ公正に審査を重ねる中、学校教育の一環としての視点でより良い形を模索していることについて一定の理解は頂けたものと感じています。

「審査」を「評価」、「審査結果」を「成果」と捉えるならば、現場での「指導」を含め本コンクールでの諸活動はPDCAのように循環すると考えられます。他の多くの公募展と違い、高校の現場の教員及び指導者で審査員が構成されている点で、指導力並びに指導の方向性が「審査」及び「審査結果」に直接影響すると言えましょう。そのような意味でも多くの教員の考え方を共有することは審査の質の向上につながり、指導にも還元できるでしょう。

今回、ワークショップ形式で実例をもとに、どのような観点で審査を行い指導に活かすべきかについて参加の皆さんと協議出来ればと計画しておりましたが、準備不足もあり十分に果たせませんでした。他

に類を見ない本コンクールを正しく発展させてゆくには一人でも多くの先生の理解と支援が欠かせません。その点においても、今回のような場を設定

して頂いたことに感謝するとともに、今後も同様な機会に恵まれることで書道教育の発展に少しでも寄与出来れば嬉しく思います。

### 探究的学習内容や新しい視点からの

### 学習活動の充実の実践報告

#### —美術科との教科連携—

埼玉県立鷺宮高等学校  
教諭 早川 雅大

この度、全国高等学校書道教育研究会川崎特別大会におきまして標記の授業実践について発表を行いました。このよ

うな貴重な機会を提供してくださいました川崎特別大会関係者の皆様、また発表に至るまでの間、ご支援ご指導を賜りました多くの役員の先生方に、心より感謝申し上げます。また埼玉県と関東地区からの推薦ということで選出された今大会でありましたが、本当に私で良いのかと考えながらとにかく良い発表をしよう

と考え、当日を迎えました。今回の発表におきましては「年賀状」という日常の書を

通して、基本的な用筆法・運筆法の理解を目指すこと、また文化的背景や書風を理解し、用筆法・運筆法など表現方法をいかに身につけることができるとともに、ポイントを置いた形となりました。

また表現と鑑賞の基礎的な能力を養い、中学校書写から高等学校芸術科・書道への円滑な接続とともに、美術選択者との言語活動の充実を図り、学力向上の一端を担う、こういったことが今回の発表の目的となりました。

美術選択者の目標としては筆の文字による特徴や伝統的な用筆法・運筆法を理解することや、日常の実用的な書に対する興味・関心を高めることとしました。また書道と美



術との合同授業により、普段と違った緊張感や、情緒や協力する心を育成すること。芸術教科間の協力体制を密にすることが期待されました。

一番の課題だと考えられた「言語活動の充実」を掲げて授業を行うものの、教師側としてはもどかしい展開が続き、どう手を入れれば良いのか思案に暮れたこともありましたが「待つ」という選択を時にはしなければならぬということを経験して、教員生活十五年目にして考えるようになりました。

発表後の質疑応答に関しましては、国語科、もしくは芸術科内での連携や、「教科」の枠を飛び越えて、文化祭な

どにおいての学校行事や部活動間などの活動にも「逆輸入」できるものがないかどうか考える良い機会にもなりました。

学校や地域によつての状況が違い、求めるものや可能なことに差がある中で、「主体的に行動する」「言語活動を充実させる」ということは教育にお

いての永遠のテーマである今回回の発表を通し再確認する機会になりました。

最後になりましたが、今回の大会発表に向けて御指導賜りました全高書研役員の先生方、大会運営に御尽力下さった川崎大会の先生方に心より御礼申し上げます。

## 芸術科書道における作品の意味や価値を見いだす効果的な学習指導方法

九州女子大学  
准教授 三浦 拓眞

本発表では、書の言語表現的機能の視座から現行の学習指導要領解説で述べられている「作品の意味や価値を見いだす」学習を捉え、漢字仮名交じりの書や漢字の書の創作場面における効果的な学習指導方法について提案しました。

一つ目は漢字仮名交じりの書の創作場面における音読・劇化についてです。「総合的な調和」には「精神的な調和」を図ることが重要だとする視点から、題材として扱う言葉へ近接するための方法として、音読・劇化の効果を検証しま

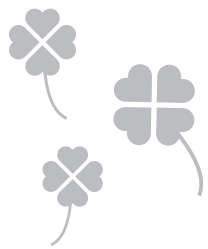
した。全校種、全教科の学習指導要領解説から音読・劇化に関する内容を抜き出し、整理すると、「対象への思いを深める働き」と「対象を他者に伝達する働き」に分類できました。高等学校芸術科書道の実践における検証から、音読・劇化は精神的な調和を図る段階で「対象への新たな気づき、気づきの質を深める」等の一定の効果が確認でき、言葉に近接するための学習方略として機能すると思われました。

二つ目は、「知の構造」と問いの設定に着目した学習を構築することです。ウイギンズ・マクタイによる「知の構造」モデルを芸術科書道の学習で

意識し、本質的な問いを設定することで、原理・一般化を目指す学習カリキュラムを意図できると考えました。学習者が目指すべき原理・一般化を示すことで、常に学習者がその本質的な問い(例えば、「書とはいかなる芸術か」と設定)に立ち返って、現在の学習を見つめ直すことができます。発表では、エキスパート学習とジグソー学習を組み合わせた古典の臨書学習、映像視聴や詩の読解により登場人物等の気持ちを考える取り組みを提案しました。

今回の発表の中では、注意の向け方や想像力の働かせ方が「書による見方・考え方」を働かせる方略にもなり得ることは提示できませんでしたが、書の言語表現的機能の視座から書表現を考えることは、結果的に生徒の「書による見方・考え方」を働かせたり、更新させたりすることつながると考えています。今後は、この研究を「仮名の書」にまで広げ、書の言語表現的機能の視座から書表現を捉えることで育成される資質・能力についても考察していきたい

と思います。最後になりましたが、この度は全高書研という特別な場で発表させていただき、貴重なご意見を頂戴いたしましたこと、心より御礼申し上げます。



# 研究部による「中高一貫校による

## 書写と書道の接続の実施状況調査報告」

### ―公立中高一貫校の調査協力校の

### 書写書道の実施状況について―

岐阜県立岐阜農林高等学校  
教諭 松原 直也

この度、第四十九回全日本高等学校書道教育研究会【事務局開催】川崎特別大会のチャレンジ分科会において、研究部として報告させていただきます。

これまで、全日本高等学校書道教育研究会研究部としては、調査部による「全国高等学校芸術科書道教育課程調査」(二〇二三年十一月開催の岐阜大会において公開)の追加調査として、研究部の研究テーマである「国語科書写との円滑な接続」の運用事例調査の扱いで実施しました。第一次調査対象校は、都内私立中高貫校の十二校として、すでに開示されている令和四年度教育課程表及び中等教育六年間を見通した、計画的かつ継続的な教育課程にもとづいた教科目標の資料提供を依頼しました。その内容を整理し、

各協力校の許諾のもと開示し、今後の高等学校校友会相互の情報共有として公開しました。

今年度は、『高等学校学習指導要領(平成三〇年告示)解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道) 編 音楽編 美術編』の第一章・第二節 芸術科改訂の趣旨及び要点、一 芸術科改訂の趣旨(三)

芸術(書道)において示された、「国語科書写との円滑な接続を図るとともに、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化についての理解を深める学習の充実を図る」を踏まえ、中学校国語科書写との円滑な接続を図りながら、高等学校芸術科書道の授業改善や、その内容の充実を目指し、情報共有をする目的により、調査内容について報告を行いました。



見交換がなされました。中には、実際に公立の中高一貫校に勤務されている先生から、円滑な接続を図るにあたっての課題や今後、より良くするため、今回の調査も含めて今後どのような取り組みを行っていくと良いのか、様々な示唆に富んだ貴重なご意見が出されました。

**令和六年度  
全日本高等学校  
書道教育研究会  
事業報告**

全日本高等学校書道教育研究会  
事務局長 **山口 英徳**

**【令和六年(2024年)】**

四月一日 「全高書研会報第九十五号」発行 茨城大会報告号

四月十四日 全日本高等学校書道教育研究会全国役員名簿原稿締め切り

五月十八日 第一回幹事会・全国役員会【和歌山県 和歌山県民文化会館】

令和六年度全日本高等学校書道教育研究会全国役員名簿(案)作成

七月三十一日〜八月四日 後援事業 令和六年度第四十八回全国高等学校総合文化祭岐阜大会 書道部門展示

【岐阜県 下呂交流会館】

八月一日 「全高書研会報第九十六号」発

行 川崎特別大会特集号  
八月八日〜九日 第四十九回全日本高等学校書道教育研究会川崎特別大会【神奈川県 カルッツかわさき】

令和六年度全日本高等学校書道教育研究会総会  
令和六年度全国高等学校書道教育に関する実態調査公表(延期)  
十月二十六日 第二回幹事会・全国役員会・第四十九回川崎特別大会報告・第五十回和歌山大会・第五十一回富山大会開催計画【神奈川県 川崎市立橋高等学校】

第四十九回川崎特別大会要望書を文化庁に提出(令和七年三月まで)

十月三十一日〜十一月一日 後援事業 第六十四回全日本書写書道教育研究会香川大会・第二十五回四国書写教育研究大会【丸亀市立城乾小学校・丸亀市生涯学習センター(まなびらんど)】

十二月六日 全日本高等学校芸術教育研究会総会【東京都立三田高等学校】



### 調査部

## 令和6年度全国高等学校書道教育に関する実態調査について

調査部部长  
埼玉県立鷺宮高等学校  
教諭 早川 雅大

本年度より調査部長を仰せつかることになりました早川です。今後ともよろしくお願い致します。

令和6年度全日本高等学校書道教育研究会川崎特別大会【事務局開催】資料内の一部について報告します。

- 1 学校数に対する書道開講校数の割合について  
・全国平均 67.44%
- 2 書道教諭の持ち時間数について(国公立全日制)  
・全国平均 12.5時間
- 3 書道開講校数に対する教諭の割合について(国公立高等学校校)  
・全国平均 58.2%
- 国公立高校の専任教

- ・専任97名(再フルと臨任を含む)+兼任427名
- 4 国公立高等学校における書道の開講状況について  
・全国平均 21.7%

### (1) 教育課程の状況について(全日制)

- 書道Ⅰのみ開講 34.4%
- 書道Ⅱまで開講 21.7%
- 書道Ⅲまで開講 12.7%
- 書Ⅰ+学校設定科目 7.4%
- 書Ⅱまで+学校設定科目 14.0%
- 書Ⅲまで+学校設定科目 9.2%
- その他 0.8%

### (2) 必修と選択の開講状況(全日制)

○この場合の「必修」とは芸術教科内の選択をさし、「選択」とは他教科との選択をさす。

- 書道Ⅰ  
必修 1524校 選択 240校
- 書道Ⅱ  
必修 239校 選択 772校
- 書道Ⅲ  
必修 22校 選択 379校
- 学校設定科目  
必修 16校 選択 537校

### 5 「学校設定科目」について

・延べ開講数 812講座

### 6 各学校の書道教育の現状について

- ① 「単位数の増加」 72校
- ② 「単位数の減少」 63校
- ③ 「講座数の増加」 169校
- ④ 「講座数の減少」 216校
- ⑤ 「受講者数の増加」 340校
- ⑥ 「受講者数の減少」 472校
- ⑦ 「必修が選択に」 25校
- ⑧ 「選択から必修に」 21校
- ⑨ 「学校設定科目の増設」 15校
- ⑩ 「学校設定科目の削減」 24校
- ⑪ 「その他」 45校

### 7 指導主事について

教育委員会指導主事については、専任・兼任をあわせて配置されている県は25県であった。

教育センター指導主事の配置県は11県になり、昨年度より1県増えた。書道教育の重要性・有用性を説き、配置の増加を推進し、より充実した教育活動を展開できるように努力していく必要があると考えられる。

### 8 教員採用試験状況について

令和2、3年度に実施21県の採用試験の実施があった。令和4年度は実施19県、令和5年度の4月の採用者数が28名であった。令和5年度実施18県、令和6年度4月の採用者数が35名であった。中でも千葉県は2年連続して5名の採用があった。(3

程・学習評価に関する専門役員会、本部役員および本部事務局、本部研究部で協議しながら準備を進めていきたいと考えています。さらに、和歌山大会の次の開催となる、令和八年度開催の富山大会の支援も含め、開催県の支援を進めていく予定です。なお、令和八年度開催の富山大会における研究活動の支援等については、令和四年度開催の岐阜大会以降、会則第四章 第二十一条により設置されました、教育課程・学習評価に関する専門役員会によって行われてきた、全国研究大会に向けた支援の内容等を踏まえ、全日本高等学校書道教育研究会の事業計画に沿って、本部研究部としての計画を、今後詳細に立案していきたいと考えています。また、富山大会の開催に向けては、開催県において設定された大会のテーマ等の確実な実現に向け、富山大会運営委員会、本部事業部、本部事務局、研究部、事業部研究推進委員会(仮称案/後述の通り)および本部事務局で協力しながら、大会の成功に向けて、事業を進めていきたいと考えています。

また、令和七年度より、今後

### ○公立中高一貫校の書写書道教育の状況調査について

『高等学校学習指導要領(平成三十年告示) 解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道編)』において示された、「国語科書写との円滑な接続」の実態について、「公立中高一貫校の書写書道教育の状況調査」のアンケート調査等を、調査協力校の協力を得ながら、年度当初に実施し、「国語科書写と芸術科書道の接続」等の運用の概要について集約させていただきます。そのまもめに

て今後の全国研究大会において報告できるように準備を進めていきたいと考えています。

都県未回答)  
おわりに

数字から見えてくるものは、各学校で書道の時間数が少なくなり、非常勤講師に置き換えられてしまうということ、またお一人の先生が非常勤で3〜4校掛け持ちしていることも珍しくないということです。

今後も正確なデータ収集はもちろんのこと、長い年月での蓄積されたデータの発表なども視野に入れていかなければならぬと思います。

今年も例年通り全国高等学校書道教育に関する実態調査に御協力いただき、ありがとうございます。今後とも、本調査へご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 事業部

#### 事業部報告

事業部部长  
宮崎県立日南高等学校

教諭 永友 大蔵

事業部では、令和六年度の事業計画として「後援事業の計画

及び推進」、「全国研究大会計画の推進」、「全日本高等学校書道教育研究会ホームページ運営の継続実施」をおこないました。

また令和六年度の各事業でも、本部事務局や渉外部との連携が必然であることから、事業計画の推進にあたっては、渉外部と歩調を合わせ、全日本高等学校書道教育研究会の事業運営への協賛支援の協力を求めました。

#### 一、後援事業の活動支援

本会の会則には、事業部の活動として、「会員相互の研修と後援事業の活動支援」と明記されています。全高書研ホームページにつきましては、本会後援事業の新しい情報を随時紹介し、活動支援を進めていきます。

#### 二、全高書研ホームページ

本会諸活動の対外的発信と会員相互の書道教育実践の情報共有などを目的として、平成二十八年より開設しています。活動趣旨・会則・組織・会務報告・会報の公開・後援事業の紹介・全国大会などのお知らせ・NEWS・LINK情報等（ペー

ジと、研究部・調査部・事業部・渉外部・出版部・庶務部の各部の活動報告ページで構成され、順次情報を更新してまいります。

令和六年四月には「新学習指導要領準拠 指導事例と学習指導案入力フォーマット第2版 ver.2」をホームページにて公開しておりますので、積極的にご利用ください。

ホームページURL

<http://zenkoushoken.sunbirdcloud.jp/>

（または、検索サイトで「全日本高等学校書道教育研究会」で検索）

#### 三、本研究会のWEBサイト運用と大会運営のクラウド運用

川崎特別大会運営ではクラウド活用を利用した研究大会を実施しました。ハード・ソフト両面での更なる検討の必要性も見てきました。授業研究・研究協議・情報交換会・授業実践発表・チャレンジ分科会の各プログラム運営に当たり、関係職員の協力のもと資料やデータを参加者と共有することができたことは大きな収穫だったと感じることができました。

### 編集後記

全高書研会報第九十七号をお届けします。全高書研会長の木

村則夫先生（神奈川県立相模原高等学校副校長）をはじめ、ご多忙の中原稿をご執筆頂きました先生方には深く感謝申し上げます。

さて、本号は先日開催されました川崎特別大会の報告記事を中心として構成させて頂きました。川崎特別大会は八月八・九日に神奈川県川崎市・カルツかわさきで行われ、全国から多くの先生方に御参加頂き、盛況裡に終えることができました。「高等学校芸術科書道とは」の大会テーマのもと、従来の研究大会の取り組みとは異なる企画が多く催されました。各先生方の実践発表の他、分科会では各テーマに応じた情報共有が行われました。鑑賞指導の実践や評価の具体など、工夫を凝らされたものを拝見させて頂き、充実したものとなりました。また開催時期が八月であったこともあり、これまでの秋開催に比べ、多くの先生方にお越し頂けたのではないかと思っております。このような貴重な機会

を得ることができましたのも、運営に携わられた先生方、また御多忙の中、研究発表をお引き受け下さり貴重な実践を発表頂きました先生方のお陰と存じます。この場をお借りし深く感謝申し上げます。

次回大会は令和七年八月、和歌山県和歌山市で開催予定です。こちらもまた多くの先生方に御参加頂き、実り多いものとなりますよう、願っております。

また全国大会の開催時期の変更に伴い、会報発行の時期も変わります。これまでは九月と三月にそれぞれ発行させて頂いておりましたが、全国研究大会のご案内などを掲載する都合で五月と十二月に変更する予定しております。次号の発行は間が短くなりますが五月下旬ごろの発行を予定しております。原稿をお書き頂く先生方にはお忙しい時期かと存じますが、御協力賜りますよう、お願い申し上げます。

(天野)

## 分科会(研究発表)

## 分科会A

## ・書道Ⅰ【漢字の書】

「書道Ⅰにおける共同作品制作の取り組みとデジタルポートフォリオの活用」

兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校 教諭 角 宗一郎

## ・書道Ⅰ【仮名の書】

「仮名書の美の理解と表現」

大阪府立金剛高等学校 教諭 松岡 千雅子

大阪府立生野高等学校 教諭 森 真記子

大阪府立門真西高等学校 教諭 町田 千智

## 分科会B

## ・書道Ⅱ【漢字の書】

「主体的な表現・鑑賞の学び～清代隷書作品による倣書学習～」

奈良県立畝傍高等学校 教諭 上明代 和宏

## ・書道Ⅱ【漢字の書】

「合同作品制作において、協働する活動を通して、創造することの喜びを実感できる授業」

大阪府立今宮高等学校 教諭 増井 航悠

## 分科会C

## ・書道Ⅱ【漢字仮名交じりの書】

「生徒の自己肯定感を育む授業を目指して～対話を軸に自作の言葉で作品を制作しよう～」

京都府立南丹高等学校 教諭 糸川 奈央

## ・書道Ⅰ【漢字仮名交じりの書】

「古典に準拠せず、自分なりの漢字仮名交じりの書を書く」

滋賀県立伊吹高等学校 教諭 押谷 達彦

## 紙上発表 6名

大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口 和士 先生(予定)

企画展 若手教員と大学教員によるトークセッション

大阪教育大学 准教授 瀬川 賢一 先生

奈良教育大学 准教授 西村 大輔 先生

併設展 「令和7年度和歌山県高等学校総合文化祭 書道展」

「紀州松煙墨・彩煙墨について」

「全日本高等学校書道コンクール大賞受賞作品展」

大会参加費 6,000円(予定)

教育懇談会 8月21日(木)18:30～20:00 ホテルアパローム紀の国

(会費7,500円予定) 和歌山市湊通丁北2丁目1-2 TEL:073-436-1200

(お問い合わせ先) 第50回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会【近畿ブロック開催】

和歌山県立田辺高等学校内 教諭 森 理加子

〒646-0024 和歌山県田辺市学園1-71

TEL:0739-22-1880 FAX:0739-22-0636



第50回全日本高等学校書道教育研究会

和歌山大会 [近畿ブロック開催] ご案内 (第3次案内)

和歌山大会テーマ

**『学びと成長の書道教育』**  
～書道教育の役割とこれから～

会 期 令和7年8月21日(木)・22日(金)  
 会 場 和歌山県民文化会館  
 和歌山市小松原通1丁目1 TEL: 073-436-1331

大会日程

◇第1日目 8月21日(木)

9:00～ 10:00	10:00～ 10:40	10:50～ 11:30	11:30～ 12:45	12:45～ 13:45	13:55～ 15:10	15:20～ 17:00	18:30～ 20:00
受付	総会	開会式	昼食	授業研究	授業研究 研究協議	情報交換会	教育懇談会

◇第2日目 8月22日(金)

8:30～ 9:00	9:00～ 11:00	11:10～ 12:00	12:00～ 13:15	13:15～ 14:45
受付	分科会 研究協議	全体会 閉会式	昼食	企画 (トークセッション)

授業研究

**A 【漢字仮名交じりの書】書道Ⅱ**  
 「言語活動の充実を目指して～地域の魅力を発信！田辺かるたを作ろう～」  
 和歌山県立神島高等学校 教諭 **笠井 千景**

**B 【漢字の書】書道Ⅰ**  
 「探究的な活動を活かした古典の書風理解～タブレットを活用した書法探究～」  
 京都府立綾部高等学校 教諭 **森 啓**

**C 【仮名の書】書道Ⅱ**  
 「体感する書～大田垣蓮月の書の刻字と比較(大田垣蓮月・香紙切)～」  
 兵庫県立洲本高等学校 教諭 **阿部 泰秀**



## 第51回全日本高等学校書道教育研究会

# 富山大会【北信越ブロック開催】ご案内 (第1次案内)

富山大会テーマ

## 『書道でウェルビーイング』

～より良く学び、より良く生きるために、  
書道教育はいかに貢献できるのか～

会 期 令和8年8月6日(木)・7日(金)

会 場 富山県民会館

〒930-0006 富山市新総曲輪 4-18(富山駅徒歩10分) TEL:076-432-3111

大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口 和士 先生(予定)

企画展 全日本高等学校書道コンクール大賞受賞作品展、特別展

大会参加費 6,500円(予定)

教育懇談会 令和8年8月6日(木) 18:30～20:00

ホテルグランテラス富山

〒930-0004 富山市桜橋通り 2-28 TEL:076-431-2211

会 費 7,000円(予定)

### 大会日程

#### ◇第1日目 8月6日(木)

9:00～ 10:00	10:00～ 10:40	10:50～ 11:30	11:30～ 12:45	12:45～ 13:45	13:55～ 15:10	15:20～ 17:00	18:30～ 20:00
受付	総会	開会式	昼食	授業研究	授業研究 研究協議	情報交換会 ブロック別会議	教育懇談会

#### ◇第2日目 8月7日(金)

8:30～ 9:00	9:00～ 11:00	11:10～ 12:00	12:00～ 13:15	13:15～ 15:00
受付	分科会 研究協議	全体会 閉会式	昼食	小分科会 (ポスターセッション)

(お問い合わせ先) 第51回全日本高等学校書道教育研究会 富山大会【北信越ブロック開催】

富山県立呉羽高等学校内 教諭 大木 美佳恵

〒930-0138 富山県富山市呉羽町 2070-5

TEL:076-436-1056 FAX:076-436-1058